



## 年頭にあたって



会長 山田友一  
会員の皆様、あけまして  
おめでとうございます。  
令和7年の正月をご家族と  
共に楽しく過ごされている  
事とお慶び申し上げます。

昨年は1月1日の能登  
半島地震、9月21日の  
能登半島豪雨により多くの人的、物的被害が発生し、  
当会会員の一部にも大きな被害がありました。

会員の皆様をはじめ被害にあわれた方々の一日も  
早い復旧、復興を願うと共に、犠牲になられた方  
のご冥福、被害にあわれた方へのお見舞いを心から申  
上げます。

そして、被害にあわれた方々が一日も早く日常生  
活が取り戻せるよう金沢龍馬会として何ができるの  
かを模索したいと思います。

さて、本年秋には金沢龍馬会主催の北陸三県大会  
が控えており、会員の皆様のご意見を伺い、金沢龍  
馬会らしい大会にしたいと考えております。

そのためにも、当会のモットーであります龍馬の  
生き方、考え方など通じて会員相互の連携をより一  
層図る為、例会等で会員講話を中心に互いに研鑽を  
図り会員を増やしながらい層明るく楽しい交流  
懇親を図り大会に備えたいと思います。

結びに、金沢龍馬会の皆様方の益々のご清栄と更  
なるご活躍をご祈念申し上げます。

## がんばれ能登



## 《北陸三県龍馬会交流会》

日時：9月21日(土) 14:00~19:30

場所：福井織協ビル内

福井市内にて北陸三県龍馬会交流会が開催されました。

参加者：参加者は山田/蛭子/吉田/中城/松岡/加藤  
/堀野/松下 8名でした。

全体の参加者は越前龍馬会、富山龍馬会、  
紀州宗光龍馬会、京都祇園龍馬会、坂本龍馬俱樂部、  
埼玉坂本龍馬会、渋谷龍馬会と講演時には65名、  
親睦会では60名の参集でした。



- 一、郷土歴史博物館、など 13:00~15:00  
福井市立郷土歴史博物館、養浩館散策  
13:00よりエクスカッションで福井市立郷土歴史博物  
館、養浩館散策がありました。  
15:00より講演会が始まりました。  
講師は後藤ひろみ氏、演題は「国際港を持つ越前」  
後藤氏は歴史人物を描く漫画家で  
福井県立博物館内にてカフェを経営、  
同時に「福井の女性起業家交流会」に参加しています。
- 二、講演に先立ち全国龍馬社中の寺村専務理事、  
坂本家十代目坂本匡弘氏より挨拶
- 三、講演の内容は：
  - ・福井(越)は古代より海で大陸と繋がっている  
ツナガアラシト、神功皇后、そして第26代  
天皇継体大王
  - ・武家政権(鎌倉幕府樹立)以降、京都で政変が  
ある場合、越前の地が影響している木曾義仲の  
京都入り、南北朝動乱 鎌倉統幕から室町幕府  
樹立、戦国時代、越前松平家
  - ・そして幕末の松平春嶽公  
財政破綻寸前の越前福井藩を救った。  
民富論公儀与論、横井小楠、橋本左内と  
由利公正を重用、横井小楠と橋本左内の頭脳で  
由利公正が実行、本来価値のない紙である藩札を  
発行し成功、長崎オランダ商館を通じ海外貿易で  
成功、龍馬は暗殺直前に福井に来て蟄居中の  
由利公正を中央に出仕させるよう要求
  - ・明治維新後  
由利公正は三岡八郎と改名し、不換紙幣・太政官札  
にて、治新政府の経済を支える
- 四、懇親会

パブ&レストラン「樽」にて懇親会開催  
参加各龍馬会より発言あり、金沢龍馬会は山田会長  
より挨拶。なお講演会の席上で最新の金沢龍馬会  
報を全員に配布、1面に山田会長のあいさつ文あり。  
各地の龍馬会と親しく交流を行った。  
なお懇親会参加者から義援金を募った結果、  
¥52,893円(前報告より千円増額)集まり社中へ渡  
した。後日石川県のしかるべき団体へ寄付される予定。

## 【敦賀史跡巡り】

10月26日(土) 敦賀史跡巡りを行いました。  
参加者は中田/吉田/中城/川端/堀野/松下、  
越前龍馬会から前田会長、そしてガイドは蛭子先生で  
計8名参加でした。

汽車組と車組に分かれ「氣比神宮鳥居前」で合流し  
ました。蛭子先生は最近敦賀ガイドにデビューしたば  
かりとの事で丁寧に氣比神宮の説明をされました。

由緒やご祭神等、時代ごとに解説されました。  
氣比神宮は現在越前一の宮ですが、かつては

現在の福井/石川/福井/新潟/佐渡全体である越(高志)の国の一の宮だったとの事です。

次に金ヶ崎城跡へ行きました。中腹の金崎宮まで登りました。更に登れば月見御殿跡(城の本丸跡)がありますが、敦賀港が見える場所までとしました。

ここでも蛭子先生は南北朝時代から織田信長と朝倉/浅井が戦いの解説をしました。

信長が撤退した「金ヶ崎の退き口」(かねがさきののきくち)と呼ばれ信長最大のピンチでした。

この戦いで殿(しんがり)を務めた豊臣秀吉が出世していきます。その後、水戸烈士追悼碑/武田耕雲斎等墓を訪れました。

松岡先生の数回にわたる講義でご存知の方もおられると思いますが、元治元年(1864)水戸藩藤田東湖の子息である藤田小四郎が攘夷を行うため筑波山で拳兵し、武田耕雲斎を総大将としましたが水戸藩内の戦いに敗れ、徳川慶喜を頼りとし京都を目指しました。

しかし幕府の妨害で中山道沿いなど山側を通り諸藩と摩擦を起こしながら思うように行軍ができず、越前経由、京都を目指す事としました。

最終的に力尽き敦賀で加賀藩に投降しました。加賀藩の扱いは良かったのですが身柄を幕府に引き渡すと同時に鯨蔵(にしんぐら)に幽閉され人としての扱いを受けず、5回に分け353名が切腹も許されず処刑されました。

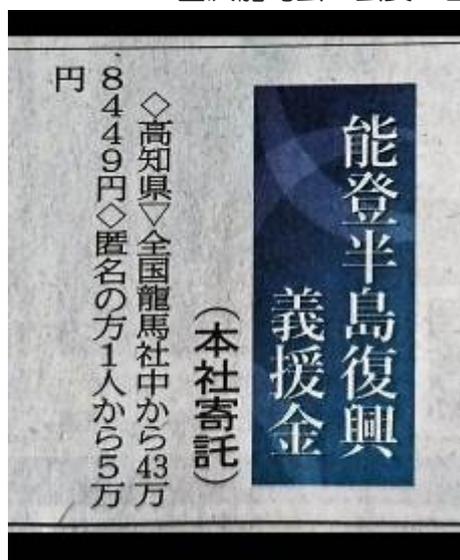
遺体を埋めた5つの塚をまとめ、他所で死んだ同志と合わせた墓(塚)となっています。

最後に敦賀海岸/氣比の松原へ移動し解散となりました。蛭子前会長は敦賀でガイドとしてデビューされたとのことで更なる高みに期待します。

## 《令和6年能登半島義援金について》

令和6年能登半島地震復興義援金に関しまして、全国龍馬社中及び国内外の龍馬会の皆様の暖かいお心遣いを、地元北國新聞社を通じて石川県に送ることができました。金沢龍馬会を代表しまして心から御礼を申し上げます。

金沢龍馬会 会長 山田 友一



## 報告(2024年12月5日)

本日午前11時に金沢市南町の北國新聞社本社に金沢龍馬会の山田会長と中田副会長訪問し、特別応接室にて地域ビジネス局担当局長西本東介様に義援金を渡してまいりました。

山田会長からは全国龍馬社中から寄せられた義援金の内容についての説明があり、西本局長からは義援金の預かり証と共に「石川県災害対策本部の能登半島地震災害義援金へ確かに届けます」との言葉を受け取りました。

その後、全国龍馬社中と金沢龍馬会との関係や歴史などを説明し、適宜写真撮影を行いました。



右側は金沢龍馬会 山田会長

## 志士たちが活躍した長崎とは②③

### 武市半平太

前回に引き続き土佐四天王(坂本龍馬、中岡慎太郎、武市半平太、吉村虎太郎)の一員である武市半平太のはなしである。

正式の名前は武市瑞山。彼は長崎を訪れたか不明だが九州諸藩を回っている。土佐出身の幕末志士に与えた影響は大きく、彼及び配下の志士は藩命で命を絶っている。

半平太は文政12年(1829年)今の高知市で生まれた。龍馬の6歳上である。生家は先祖が富農であったが5代前に郷土となり既に白札であった。

(注:郷土は主に山内家直参の上士に対し、多くは長曾我部時代の半農半兵だった者で上土の下に置かれた武士階級。白札となると上土と同格と認められる)

剣術を習い始め腕を上げ高知城下で更に技術を磨く。ペリー来航の翌年、道場を開く。評判がよく120名の門弟が集まった。

安政3年(1856年)藩より剣術修業が許され弟子を伴い江戸の士学館(桃井道場)に入門し、そこで塾頭となった。同時期に龍馬も北辰一刀流千葉

道場で剣術修業を行った。翌年土佐に帰国し剣術諸事世話方に任じられた。

時代は変遷し、安政 6 年（1859 年）安政の大獄により主要な大名を処分し藩主山内容堂も隠居させられたが、翌年井伊直弼は桜田門外の変で暗殺された。時代は尊王攘夷運動へ向かった。

彼は弟子を連れて西国へ向かい長州や九州諸藩の動静視察を行った。その後文久元年（1861 年）江戸に向かい長州の桂小五郎、日下玄瑞、高杉晋作や薩摩藩、水戸藩の尊王攘夷派と交流した。そこで土佐/長州/薩摩の藩主を京都へ向かわさせ、朝廷をして幕府に攘夷を迫ろうと提案し皆の同意を得た。

そして土佐勤王党を結成し土佐藩を勤王藩とすべく活動を開始した。龍馬が土佐における筆頭加盟者となった。加盟者は真崎鉄馬、平井収二郎、中岡慎太郎、吉村虎太郎、岡田以蔵とこれ以降維新までに活躍する土佐藩の志士を網羅している。党员は計 192 名となったがほぼ下級武士であった。

当時土佐藩は山内容堂の信任を受けた吉田東洋とその配下が開国、公武合体で意思統一し藩政改革を進めていた。

半平太は必死に攘夷を説くが受け入れられなかった。長州攘夷派とも連絡を取ったが長州藩も思うように動かなかつた。その内薩摩より島津久光が精兵をもって京都へ向かうとの情報が入ったので、吉村虎太郎は半平太にこの義挙に参加すべきと主張した。

しかし半平太は土佐一国勤王が大事だとしてこれに反対した。その結果、虎太郎、宮地宜蔵は脱藩、更に龍馬と沢村惣之丞も脱藩した。

半平太はその後土佐藩の攘夷ができないのは吉田東洋が悪いと判断し那須信吾、大石団蔵、安岡嘉助をして暗殺を実行する。そして実行犯は脱藩した。東洋派は激怒したが、この時点では逆に土佐勤王党が政権を掌握してしまった。

一方島津久光の上京は攘夷でなく公武合体であり薩摩攘夷派は肅清され土佐を脱藩した吉村虎太郎は土佐に送還された。

逆に長州は攘夷派が優勢となった。土佐でも容堂が参勤交代の途中で在京警備と国事周旋の朝命を受けた。半平太は他藩応接役に任じられ京都に居を構えた。当時京都では天誅なる暗殺が横行し、半平太も関わった。土佐では主に岡田以蔵が人切を担当した。容堂が江戸に向かう際、土佐勤王党メンバーが警護役に選抜され半平太も付き従った。そして文久 3 年（1863 年）京都留守居加役となり上土格に昇進した。

ところが容堂は土佐勤王党の台頭に不快感を示し京都から真崎哲馬などを土佐に送還させた。容堂は吉田東洋暗殺下手人の搜索を命じ、土佐勤王党に同情的な藩幹部を解任した。長州久坂玄瑞は半平太に長州への亡命を勧めたが土佐へ帰国してしまった。平井収二郎、真崎哲馬、弘瀬健太は入牢しており切腹を命じられた。

同時期 8 月 18 日の政変で会津・薩摩により長州は京都から追放された。そして大和では天誅組で吉村虎太郎は討ち死にした。半平太以下土佐勤王党幹部は投獄された。京都にいた岡田以蔵も送還され拷問にかけられた。半平太以外の同志は同様に拷問され京都の人斬りの実態も明らかとなった。慶応元年 5 月（1865 年）半平太は切腹、岡田以蔵達 4 名は斬首、その他 9 名は永牢。半平太は享年 37 歳であった。辞世の句は「ふたゝびと 返らぬ歳を はかなくも 今は惜しまぬ 身となりけり」

元藩主容堂は明治維新以降の晩年、夢にうなされ半平太を殺したことを悔いていたとのこと。

参照：ウキペディア、他



JR 高知駅前「高知三志士像」  
左「半平太」  
中「龍馬」  
右「慎太郎」

吉田撮影

### 【編集後記】

皆さま、今年も宜しく申し上げます。昨年の福井での『北陸三県大会』や「高知での全国大会」のお話もいつかお逢いした時に何うのが楽しみです。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。

会報も第 42 号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

\*\*\*\*\* 事務局\*\*\*\*\*

### 金沢龍馬会

会 長：山田友一

事務局長：吉田信夫

080-5600-

1113jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

[n-toshio@muj.biglobe.ne.jp](mailto:n-toshio@muj.biglobe.ne.jp)

### 金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

